

学年通信「打たれよ熱き鉄人たち」第12号

令和元年(2019年)7月11日(木)発行

◎活躍する仲間たち ～棠楓祭文化の部2年ステージ発表を講評する～

7月4日(木)5日(金)、棠楓祭文化の部。恒例により2年はステージ発表。初日、理系4クラス。1組は「桃太郎」のパロディお笑い系。これが何と生徒全員の投票による審査では学年2位に相当する「優秀賞」を獲得。ビデオCM部門でも校内3位に相当する団長賞。キジ役に扮する谷田くんの存在感が主役を食っていました。2組は「華のシンデレラ」。これも原作を学園ドラマふうのパロってほっこりラブコメに。背景画のグレード高く、役者より目立っていました。3組は「アンパンマンショック」。この世からあんパンが消えたらどんなに世界が悲惨になるかというテーマ。色んな国籍の登場人物が出て来て賑やかでした。個人的には今宿くんのインド人好きですね。4組は「学園白雪姫」。これも学園ドラマふうアレンジでしたが、理系の中では4組のが比較的話の先が読めず、劇として面白かったので、特別に「学年主任賞」をさしあげます。

2日目。文系の出番。8組は「学園祭 Magic～僕らが奇跡を掴むまで～」簡単に言えば、サッカー部と野球部の男子が一人のヒロインを巡って恋の争奪戦を繰り広げるという話。ピン芸ありラブありの盛りだくさん。スタバの短いシーンのための大道具丁寧すぎ。7組は「花よりフード」いわゆる「花より男子」をもじっていますが、内容は「ラブストーリーイン冷蔵庫」冷蔵庫の中で繰り広げられる食料品同士の主導権争い。イチゴと牛乳がくっついてイチゴミルクになるのは面白い。最優秀演技賞に輝いた野依さんはじめどの出演者も照れることなく真剣に演技に取り組んだ姿勢が高評価。案の定「最優秀賞」受賞。5組「8747円の劇」タイトルは不可解ですが、高校の授業の一コマをドリフターズばりに脚色したドタバタ喜劇。村井くんの個人技が炸裂した出し物で、暗転少なくシンプルな進行で、役者のセリフも伝わりやすく、細かいところの修正さえできておれば最優秀の有力候補だったと思います。最後が6組「Sleeping Princess」眠れる森の美女のショートリメイク。王妃役の川副くんのなりきり演技が際立っていて優秀演技賞を受賞。CM部門でも2位相当の校長賞。秀逸は町田くんのナレーション。プロ顔負けのうまさ、声の良さ。今回の取組で、教室では見えない諸君らの能力・持ち味を発見することができ、とても喜んでます。ダンスの有志では、2年女子たちのキレキレダンスに加え、7組の中祖チームによるイルミネーションダンスも圧巻でした。去年今年と見逃した人は来年の公演お見逃しなく。以上、講評でした。

ステージ体験は自己変革の絶好の機会です。大勢の人前で発表したり演じたりするのは勇気が要りますが、それをクリアしたときの自信は計り知れないものがあります。来年は劇という形ではなく有志発表になるかと思いますが、積極的に舞台へ上がり、諸君らの持つエネルギーを外へ外へと広げていって欲しいと思います。

日	曜	学習内容
8/29	木	修学旅行前健診(対象者のみ)
30	金	課題考査①限:英語、②限:国語、③限:数学
31	土	
9/1	日	
2	月	①②限:始業式・大掃除・LHR 理系⇒課題考査③限:化学、④限:物理/生物
3	火	⑦限:総合(フィールドワークを受けて)
4	水	
5	木	⑦限:LHR(修学旅行関係)
6	金	修学旅行荷物搬送
7	土	
8	日	
9	月	⑤⑥限:修学旅行結団式・LHR
10	火	修学旅行:北海道道南方面(~13金、3泊4日)

教科・科目	内容	提出日等
現代文	『ニューエイジ現代文必修2』(第一学習社) 読書感想文(原稿用紙5枚:提出は任意) 『現代文大学入学共通テスト基礎力養成ノート』	問題集:課題考査終了後 読書感想文:8月21日(水)
古典	『新成古典3ステップオリジナル問題集』(尚文出版) 『読んで覚える古文単語315』(桐原書店)	問題集:課題考査終了後 (古文単語は進学補習で使用)
数学	『FocusZ』指定の例題	FocusZ用ノート:課題考査終了後
物理	『セミナー物理基礎+物理2019』 読書課題『眠れなくなるほど面白い物理の話』	問題集のみ課題考査終了後
生物	『リードα』(生物基礎の範囲) 課題図書読書の読書レポート	両者とも課題考査終了後
化学	『リードα』	課題考査終了後
英語	『システムリーディング基礎1~15』およびCD 『基礎英文問題精講』・『読んで覚える英単語』 『英作文基本300選』 理系:『NEWSBREAK』、文系:配付プリント	授業で指示のあったとおり
総合学習	・新書を1冊読んで、レポート(指定の用紙) ・オープンキャンパス体験レポート(指定の用紙) ・フィールドワークレポート(班で協働して)	すべて9月2日(月)のLHR

*なお、詳細については、各教科担当からのプリントや指示に従うこと。

なお、スポーツ部門では、女子ソフトテニス部8組の青木さんが夏のインターハイ出場。女子卓球部4組小島さん、5組藤井さん、6組辰井さん、田中さんが個人戦ダブルスで、男子テニス部が団体戦で、それぞれ近畿大会出場。水泳部は、8組の森口くん、4組の二人の奥村くん、6組の町田くん、2組の高橋さんが近畿大会出場。一方、チームスポーツでは「14年ぶり」がこの春のキーワード。A FBが県で堂々の準優勝、14年ぶり関西大会出場。男子バレーボール部も14年ぶり県ベスト8返り咲き。2年生もチームの主力となって復活劇に貢献しました。他にも成果を見せてくれた仲間たちがいると思いますが、紹介しきれずにごめんなさい。文武両道を掲げる本校。武はさておき、文の面でもゆるまず成果を、熱き鉄人たちよ!

★記事の合間に夏休み学習課題と新学期当初予定を入れています。今年8月30日に課題考査があります。

シリーズ「担任のこころ」9

しらい ひさき
白井 久喜 2-6 担任 地歴公民 AFB 部顧問

ガリレオかと紛うような才能を持った井上画伯の手による肖像は美化 200%に仕上がりに、何とも気恥ずかしい姿なんだけど、せっかくなので画に因みアメフト部の話をしようと思うんだ。

テーマは、「夢は叶う～You can't get what you want, until you know what you want.～」

一年前の4月、勧誘を終え新入部員がクラブ集会にあつまつた様子を見て「よし、1年後に関西大会に行こう」と決め、部員にもそう宣言したんだ。アメフトは幸い県2位チームまで関西大会に出場できるのでその枠に入ることを決めたんだ。思い立ったら即行動ってことで、5月下旬から始まる関西大会を大阪の吹田まで見に行っただよ。僕が4年前に赴任してから十の大会があったけど1勝しかしていないのに、どうやって関西大会に出るつもりだといって言われても仕方ない状態なのに！

異常気象といわれた酷暑を乗り切りある程度「できるかな」と思って臨んだ9月の秋季大会だったけど、勝てなかったし、11月の新人戦でも勝てなかった。練習はしたよ。でも勝てなかったんだ。当然だけど「何で勝てないんだ」って思ったから、当時滋賀2位に位置していた虎姫高校と比べて何が違うのかを分析し、出した答えは「個人の能力差ではなく経験値の差」だということ。

そこからは遠征の連続だ。地面が凍る1月から水温む4月まで7回の遠征を行ったよ(3月は毎週末遠征さ)。相手はあえて関西大会ベスト4の常連校ばかりにお願いをしたんだ。どうせやるなら強いトコとやらないとね。春休みは、日帰り合宿と銘打って二部練と遠征の繰り返し、そのまま新学期早々の4月14日の春季大会1回戦に臨み、5月5日まで活動を続けたよ。世の中10連休だったらいいけど、アメフト部には無縁だったよ。

とはいえ、12月の再スタートから選手全員の意識が高かった訳じゃないんだ。ホントに勝てるの?って表情が見えたり、トレーニングを100%でやらない雰囲気があったりしたので、大会まで6週間を切った時にミーティングを開いたんだ。そこで部員たちに伝えたのが、サブタイトルにしている You can't get what you want, until you know what you want.だ(意味は分かるよね?)。ホントに関西に行きたい? 行くには何をしたらいい? 自分で自分に問いかけてみい。関西大会に行けるチャンスがあるのに逃すつもりなの?

意識だけでは戦えないのが試合だから、相手の弱点を研究し、戦略を考え、練習で試すんだけど上手いかない。その夜に戦略を練り直し、翌日にその確認をする日々の繰り返しさ(こういうのを PDCA plan-do-check-act cycle っていうんだ)。時間がいくらあっても足りなかったよ。

手ごたえがはっきりないまま県大会を迎え、チームが強くなったなと思えたのは県大会3試合目の4月28日だった。半年かかったよ。

結果、3勝1敗で滋賀2位になり、14年ぶりに関西大会出場となった。(因みに八日市高校で、春季大会の団体成績は最高が2位でそれがアメフト部なんだけど目立ってないよなあ。誤解のないように言っておきたいけど、個人ではインターハイに出場する選手もいるし、近畿大会に出場する団体や個人もいるよ。拍手、拍手！)

半年間、苦しかった。オフも少ないし(新学期からはホントになかった。試合の次の日もビデオを見て反省点を洗い出し、翌週の対戦相手に有効な作戦を考えるんだ。PDCAだね)、遠征移動は電車ばかり(名古屋に行ったときは片道3時間さ)で疲れるし、宿題もしないといけないしね。そんな苦しい中で、色んな事を我慢し、掴んだ関西大会出場は、5月4日に決まったんだ。

宿敵だった虎姫戦の終わりを告げる「Game Over」の審判の声を聞いたときサイドラインで思ったのは「しんどかったあ。でも夢は叶うんだなあ」ってこと。思いを叶えることは簡単じゃないよ。でも、意志を持って具体的に行動すれば叶うんだ、ということを実感したよ。何といっても一番しんどかった部員たち18人はそれを実現したからね。(作風は“ライ麦畑でつかまえて”風さ！)

